

# 「神の安息＝繁栄」

～神が命じたとおり、その通り行った！！～

ヘブル4：1－7

## ■ 神様の御声を聴く方法は…

みことば（聖書）を読むということです。正しいことが何であるかを私達は理解しなければなりません。今まで育ち、過ごしてきた家庭、地域、国…その環境において「あたりまえ」だと思っていたルールがたくさんあります。けれど、そのルールは正しくないことが多いのです。教会に来てこういったルールが取り去られた私たちは聖書の土台を持たなくてはなりません。創世のはじめから神様はあるべきルールを教えています。その根底にあるものは「愛する」ということです。ぜひ、ローマ人への手紙とヘブル人への手紙を読みましょう。

## ■ 神様のもとにすれば安息があります…

神様は私たちの傷を十字架によって取ってくださり、創世のはじめの七日目にすでに安息を与えてくださっています。神様のもとにすれば必ずあなたの傷は癒されるという約束です。旧約の時代は「安息」というと「土地」でした。エジプトでイスラエルの民は奴隷となっており、神様が「安息に入らせる」と言われた時には新しい「カナン之地」がありました。カナン之地に入るまでは荒野を通らなくてはなりませんでしたが、それは狭い荒野でした。岡山から真庭に行くくらいの距離です。ところが、イスラエルの民は40年間もその荒野をさまよったのです。その理由は「文句」「頑な」でした。イスラエルの民は自分たちの罪の故にエジプトで奴隷としての苦しみにあったにもかかわらず、神様はその苦役から救い出すためにモーセを通して導いてくださいました。それなのにイスラエルの民は「水がない。食べ物がない。エジプトにいた時の方が良かった。」と散々文句を言い、神様の命じた通りに行いませんでした。目の前に安息の地カナンがあったのに自ら入らなかったのです。安息とは自らの荷物を置いて休もうと思った瞬間におきるのです。神様の前に出て自らの姿を見出した時に初めて自分の問題点、傷、痛みがわかり、その根本がイエス様によって癒されることを信じてはじめて安息があるのです。問題が解決されることを信じるから安息に導かれるのです。今日、ぜひ重荷を置きましょう

## ■ ノア…（創世記6：17－7：5）

ノアが選ばれたのは、神様が命じた通りに行く人だったからです。ノアが箱舟を作った十数年という期間、どれだけ人から中傷されたのでしょうか。これは荒野を通っている中でどれだけ問題があったかということと同じです。私たちは教会に来る前はエジプトにいました。エジプトを原語から訳すと「肉・世俗」という意味があります。肉・世俗に生きていた私たちが神様に会って新しい地に入ろうという旅を始めました。新しい地に入るまでに私たちは今までの世俗で受け、学んでしまった様々な人間的・肉的な考え方を少しずつ変えていかなければなりません。人間の世界のルールでは神様の言われることは絶対にできないことなのです。例えば、人間の世界のルールでは右の頬を打たれたら左の頬を出すことはできません。自分の敵を自らのように愛することはできません。

私たちが神様に会い、新しい道に入ろうとする時には必ず自分との戦いを通ります。

## ■ ①あなたは安息（繁栄）の源

イエス様はあなたが受けるすべての痛み、苦しみ、呪い、裏切り…すべての重荷をその身に背負って十字架で死なれたのです。あなたがイエス様のもとにすべての重荷を降ろしさえすればあなたを通して幸せが流れていくのです。ノアも徹底的に侮辱されていたはずですが、でも、ノアは神様の言われたことを信じて徹底的に自分と戦ったのです。今、苦しい状況、荒野にあるならばもう少しです！もう少しでカナン之地です！エジプトは奴隷と拘束。荒野は戦いとその中で得る幸せ。そして、カナン之地は十分な満ちです。ノアが耐えたから人類は再び再興できたのです。同じです。あなたが源なのです。

## ■ ②ルールからキリストの愛に ～思いやりと分かち合いの源～

私たちが生きる中で大事なことは思いやることと分かち合うことです。思いやることは愛です。分かち合うことは自らが受けたものを流すことです。私たちはイエス様にすべてを背負って頂いて変えられました。今、荒野の中であなたができることをやらなければ意味がありません。だからこそ、神様は蒔く種を与えてくださっています。誰かのために蒔くならあなた自身も豊かになり、その人も助かるのです。それが愛することと分かち合うことです。自己中心はこれを絶えず妨げてきます。自己中心に勝利しなければなりません。

## ■ ③忠実に行う！！

神様は私たちにたくさんのお話をすべて行えとは言っていません。その時その時「一つ」これを守りなさいと言われていきます。そして、それはできることです。それを行うまでは安息はありません。イエス様が私たちの重荷を負ってくださっていて、私たちはその隣を歩くだけなのです。戦おうと決心して立ち上がることが私たちの仕事なのです。これは守るけど、あれはやらないと不忠実にしてはいけません。神様が守りなさいと言われていたら、たとえそれが誰であれ、どんな場所であれ行うことが大切です。あなたが繁栄の源だからです。あなたが繁栄されないとあなたを通して救われる人々も安息を受けられないのです。

## ■ 祈りましょう…

神様、あなたがせよと言われることの一つをあきらめず、戦って行い、癖を捨て、受けたものの中から種を蒔きます。そのために、あなたの恵みを思い起こさせてください。必ず繁栄することを信じます。

（要約者：全本 みどり）